

## IV 校内研究推進計画

### 1 研究主題

#### (1) 研究主題

**表現力を育成する理科・生活科学習の創造**  
**～学習の基盤となる資質・能力の向上を図るカリキュラム・マネジメントを通して～**

#### (2) 昨年度研究の成果と課題

昨年度の研究主題は、『自らの学び』を構築する生活科・理科学習の創造～思考・表現の『すべ』を活用した課題発見・解決学習を通して～であった。これを基に、次の2つの視点を設定して研究を進めていった。

視点1：児童が「すべ」を活用しながら課題発見・解決学習に取り組むための単元構想の作成と検討  
視点2：授業設計評価マトリクスを活用した、児童が自らの学びを構築するための支援と評価の充実  
視点3：カリキュラム・マネジメント

それぞれの成果と課題は、次の通りである。

##### ①成果

- ・「すべ」を用いて思考・表現させることは、考えた過程を論理的に表現する上で有効である。
- ・課題発見・解決学習を行い、持続した学びに繋がるような単元構想および授業設計評価マトリクスは児童の「自らの学び」を構築する上で有効である。
- ・評価マトリクスは、目標達成に向けて教師が必要な手立てを考える上で有効である。
- ・カリキュラム・マネジメントを行うことは、児童一人一人の「主体性」や「表現力」を育て、他者とのかかわり合いながら主体的に課題解決したり、表現したりする上で有効である。

##### ②課題

- ・授業設計評価マトリクスにおけるレベル3及びレベル4の児童について、3つの学年において目標未達成である。
- ・「すべ」が資質・能力を高めるための「見方・考え方」と整合していない。
- ・授業において考察や気付きを書くことができる児童は増えたものの、思考・表現を問う評価問題の目標が未達成である。

#### (3) 主題設定の理由

昨年度の課題から、児童が主体的に問題発見・問題解決する中で、表現力を育成することを通して理科・生活科固有の資質・能力及び学習の基盤となる「言語能力」「情報活用能力」「問題発見・解決能力」の向上を図ることが必要であると考えた。そこで本年度は「表現力を育成する理科・生活科学習の創造」とし、サブテーマを～学習の基盤となる資質・能力の向上を図るカリキュラム・マネジメントを通して～と設定した。児童が教材や他者とのかかわり合いながら問題発見・問題解決することを通して、自らの考えを持ち、論理的に表現すると共に、考えを広げたり、深めたりする学習活動として展開させていく。

○本校における「表現力」とは

理科、生活科のみならず、汎用的な表現力として次のように設定した。

1・2年	3・4年	5・6年
<ul style="list-style-type: none"><li>・身近なことや経験したことなどから、自分の思いや考えを持つ。</li><li>・相手に伝わるように、事柄の順序を考えて表現する。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・目的を意識して、自分の思いや考えをまとめる。</li><li>・相手に伝わるように、理由や事例を挙げながら伝えたいこと、中心が明確になるように構成を考えて表現する。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・目的や意図に応じて、自分の思いや考えを広げる。</li><li>・内容が明確になるように、事実と感想・意見を区別するなど、構成を考えて表現する。</li></ul>

○本校における「学習の基盤となる資質・能力」とは

次の3点について、教科横断的な視野に立って育成する。

言語能力：国語科を要としつつ全ての教科等においてそれぞれの特質に応じた言語活動を通して育成する能力。

情報活用能力：情報及び情報技術を適切かつ効果的に活用した学習活動等を通して育成する能力。

問題発見・解決能力：問題を見いだし解決していく過程を重視した学習活動等を通して育成する能力。

#### (4) 研究のねらい

理科、生活科及び総合的な学習の時間を主軸としたカリキュラム・マップの作成・活用・改善や資質・能力を育成するための単元を貫いた課題の設定を行い、生活経験や既習事項が活用できる場面を工夫した授業づくりを通して、児童が学んだことを論理的に表現する力を育成する。

#### (5) 研究仮説

学習の基盤となる言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力の育成を図るための効果的なカリキュラム・マネジメントを行うことで、表現力が高まるであろう。

#### (6) 研究の概要

##### ①研究のポイント

資質・能力を育成するためのカリキュラム・マネジメント

##### ②研究の視点

研究主題に迫るために、次の3つの視点を設定した。

##### 視点1：年間指導計画（理科・総合的な学習の時間のカリキュラム・マップ）作成と活用・改善

・理科、生活科及び総合的な学習の時間を主軸としたカリキュラム・マップを作成し、見直しを持ちながら教科等横断的な学習をしたり、必要な物的資源・人的資源を確保したりするとともに、単元終了ごとに改善することを通して、学習の効果の最大化を図るカリキュラム・マネジメントを行う。

##### 視点2：資質・能力育成のための単元構想

・学習の基盤となる資質・能力（「言語能力」「情報活用能力」「問題発見・解決能力」）及び理科・生活科における資質・能力（「知識及び技能及びその基礎」「思考力、判断力、表現力等及びその基礎」「学びに向かう力、人間性等及びその基礎」）を育成するために、その単元で育成する資質・能力を明らかにする。

・単元全体を貫く課題を設定し、児童が関心や意欲を持って対象と関わることで、自ら問題を見いだし、主体的・協働的に問題解決に向けて追究していく学習者基点の単元構想を設定する。

・「すべ」を活用させるための教師の問いを整理し、習得・活用・探究の学習過程の中で自分の考えを論理的に説明させ、「すべ」を活用する良さに気付かせる。

##### ○思考・表現のための「すべ」

比較	関係付け	条件制御	多面的思考
○自然の事物・現象について追究する中で、差異点や共通点を基に、問題を見いだし、表現すること。	○自然の事物・現象について追究する中で、既習の内容や生活経験を基に、根拠のある予想や仮説を発想し、表現すること。	○自然の事物・現象について追究する中で、予想や仮説を基に、解決の方法を発想し、表現すること。	○自然の事物・現象について追究する中で、より妥当な考えをつくりだし、表現すること。

<p>○複数の自然の事物・現象を対応させて比べ、差異点や共通点を明らかにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・同時に比べる。</li> <li>・時間的な前後の関係で比べる。</li> </ul>	<p>○自然の事物・現象を様々な視点から結び付ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・変化とそれに関わる要因を結び付ける。(自然の事物・現象の変化とそれに関わる要因と)</li> <li>・既習の内容や生活経験と結び付ける。(自然の事物・現象と既習の内容や生活経験と)</li> </ul>	<p>○自然の事物・現象に影響を与えると考えられる要因について、どの要因が影響を与えるかを調べる際に、変化させる要因と変化させない要因を区別する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・制御すべき要因と制御しない要因を区別しながら計画的に観察、実験などを行う。</li> </ul>	<p>○自然の事物・現象を複数の側面から考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・問題解決を行う際に、解決したい問題について互いの予想や仮説を尊重しながら追究する。</li> <li>・観察、実験などの結果を基に、予想や仮説、観察、実験などの方法を振り返り、再検討する。</li> <li>・複数の観察、実験などから得た結果を基に考察をしたりする。</li> </ul>
---	---	--	---

- ・児童同士の協働，教職員や地域の方々との対話，既習事項や先哲の考え方を手がかりに考えながら問題を解決する活動を通して，自己の考えを広げたり，深めたりしたことを表現する場を設定する。

**視点3：授業設計評価マトリクスを活用した指導と評価の改善**

- ・授業設計評価マトリクスの作成により，授業のねらいや単元のねらいを達成した児童の具体的な姿を明確にする。4段階のレベルで児童一人一人の姿を予測する。それぞれの段階に応じた教師の支援や助言をあらかじめ複数準備する。
- ・生活事象について，学習したことを用いて説明する場を設定し，学習した科学的事象が生活の中に深く関わっていることに気付かせる。
- ・児童が学びを広げたり深めたりすることができる対話的・協働的な活動を取り入れる。

**(7) 検証の視点と達成目標**

<p>評価の観点 (方法)</p>	<p>(1) 教師はカリキュラム・マップを活用して，学習の効果の最大化を図るカリキュラム・マネジメントを行うことができたか。(教師アンケート)</p> <p>(2) 児童は発達段階に応じて論理的に表現することができたか。(記述，思考力・判断力・表現力等を問う単元末テスト)</p> <p>(3) 児童が主体的に問題発見・解決し，持続した学びに繋がるような単元構想および本時のねらいを達成できていたか。(授業設計評価マトリクス)</p>
<p>評価の目標</p>	<p>(1) 毎月末の教師アンケートの肯定的評価 90%以上</p> <p>(2) 単元末テスト問題B評価以上の平均通過率 80%以上</p> <p>(3) 授業設計評価マトリクスのレベル3 (観点B評価) 以上に達した児童の割合 80%以上</p>

**2 令和2年度研究推進計画**

**(1) 研究を推進していくための2つの指針**

児童の表現力を育てるために，次の2点を中心に研究計画を立案し，研究を進めていく。

- 授業研究・協議会を通して実践的研究を進める。
  - ・講師を招聘した授業研究・協議会を1学期に各1回行う。
  - ・公開研究会を実施し，授業提案，実践発表を行う。
  - ・問題解決学習に向けて，年間3回以上単元を貫いた問題を設定し，授業改善を行う。
  - ・単元ごとに生活と結びついている事象を取り上げた記述式評価問題を作成し，実施する。学年の系統性や児童の実態に合った内容になっているか研修を通して改善していく。
  - ・授業設計評価マトリクスをもとに協議会を実施し，評価の仕方について研修を行う。

○検証の視点に沿ったデータ分析と短期サイクルの評価と改善を進める。

- ・教師アンケートを毎月，児童アンケートを4月，6月，10月，12月，2月に実施し，検証を行いながら授業改善に生かす。
- ・観察記録やまとめの交流を積極的に行い，お互いに見合ったり意見を交流したり分析したりすることで，共通理解を図るとともに，研究のレベルを高めていく。

(2) 令和2年度研究推進計画 ※新型コロナウイルスの影響で変更あり

月	日	曜	研究内容	講師
6	18	木	○授業研究・協議会（担当：研究主任） ・理科授業研究（4年・5年） 【担当】写真（衛藤）記録（児童：井藤） 記録（教師：小田）	広島大学大学院 木下 博義先生
	30	火	○理論研修（担当：研究主任） ・生活科授業研究（1年・2年） 【担当】写真（遠崎）記録（児童：武市） 記録（教師：衛藤）	関西福祉大学 金沢 緑先生
7	2	木	○授業研究・協議会（担当：研究主任） ・理科授業研究（自閉症・情緒障害特別支援学級6年） 【担当】写真（松野）記録（児童：小田） 記録（教師：橋本）	尾道市教育委員会 指導主事
			○理論研修（担当：研究主任） ・理科授業研究（3年） ・総合的な学習の時間授業研究（6年） 【担当】写真（木曾）記録（児童：小田） 記録（教師：井藤）	尾道市教育委員会 指導主事
	23	木	○理論研修（担当：研究主任） ・1学期実践のまとめ提案 ・教育研究会について	
	27	月	○個人研修 ・1学期の教科研究評価の集計 ・1学期実践のまとめ作成	
	28	火	○ブロック研修（担当：教務主任） ・カリキュラム・マップ修正・改善	
	29	水	○理論研修（担当：総合担当） ・1学期総合的な学習の時間の成果と課題 ・総合的な学習の時間ブラッシュアップ	
8	3	月	○理論研修 ・2学期公開研単元構想図検討（理科・生活科）	
	4	火	○理論研修 ・2学期公開研単元構想図検討（総合的な学習の時間）	
	5 ～ 7	水 ～ 金	○個人研修 ・研究会指導案作成・予備実験 ・研究会指導案修正 ・研究会掲示物作成	
	21	金	○理論研修（担当：研究主任） ・研究会模擬授業	
	24	月	○理論研修（担当：教務主任） ・2学期の重点課題	

9	3	木	○ブロック研修 ・公開研究会本時改善模擬授業	
10	1	木	○理論研修（担当：研究主任） ・研究の提案について	
	8	木	○ブロック別研修 ・授業公開改善案模擬授業	
	15	木	○理論研修（担当：研究主任） ・授業公開全体シミュレーション ・研究報告プレゼン	
	22	木	○授業公開細案作り・教室掲示完成	
	26	月	○公開研究会 ・研究授業 ・分科会 ・講演	甲南女子大学 村川 雅弘先生 関西福祉大学 金沢 緑先生 広島大学大学院 木下博義先生 尾道市教育委員会 指導主事
11	5	木	○理論研修（担当：研究主任） ・授業公開反省	
12	24	木	○理論研修（担当：総合担当） ・2学期総合的な学習の時間の成果と課題 ・総合的な学習の時間ブラッシュアップ	
1	14	木	○理論研修（担当：研究主任） ・○○科単元構想図検討（専科）	
	21	木	○理論研修（担当：研究主任） ・研究のまとめ	
2		木	○授業研究・協議会（担当：研究主任） ・○○科授業研究（専科） 【担当】写真（橋本） 記録（児童：衛藤） 記録（教師：遠崎）	尾道市教育委員会 指導主事